

登 園 届	園長宛
園児氏名 _____ (_____ 年 _____ 月 _____ 日生)	
診断された病名: _____	
診断された日付: _____ 令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日 受診医療機関名: _____	
登園可能日: _____ 令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日から 判断された医療機関名: _____ (受診日: _____ 月 _____ 日)	
以上のように病状が回復し集団生活に支障がない状態であると医療機関で判断されましたので登園します。	
令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日 保護者氏名 _____	

園は集団生活の場です。感染症の流行をできるだけ防ぐことはもちろん、園児が一日快適に生活できることが大切です。下記の感染症については、登園のめやすを参考に、主治医の診断にしたがい、登園届の提出をお願いします。(受診時、主治医に確認をして、保護者本人が記入してください。症状等について不明な点がある場合は、園から受診された医療機関に、問い合わせする場合があります。)

なお、園での集団生活に適応できる状態に回復してから登園するよう、ご配慮ください。

【登園届の提出が必要な感染症】

登園のめやすは、学校保健安全法施行規則及び厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドライン」を参考にしています。

感染症名	感染しやすい時期	登園のめやす
麻疹 (はしか)	発症 1 日前から発しん出現後の 4 日後まで	解熱後 3 日を経過してから
インフルエンザ	症状が有る期間 (発症前 24 時間から発病後 3 日程度までが最も感染力が強い)	発症した後 5 日を経過し、かつ解熱後 3 日を経過してから
新型コロナウイルス感染症	発症後 5 日間	発症した後 5 日を経過し、かつ症状が軽快した後 1 日を経過すること ※無症状の感染者の場合は、検体採取日を 0 日目として、5 日を経過すること
風しん	発しん出現の前 7 日から後 7 日間くらい	発しんが消失してから
水痘 (水ぼうそう)	発しん出現 1~2 日前から痂皮形成まで	すべての発しんが痂皮化してから
流行性耳下腺炎	発症 3 日前から耳下腺腫脹後 4 日	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
髄膜炎菌性髄膜炎		感染のおそれがなくなってから
結核		感染のおそれがなくなってから
咽頭結膜熱 (プール熱)	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え 2 日経過してから
流行性角結膜炎	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後 3 週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで又は 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
腸管出血性大腸炎 (O157、O26、O111 等)		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48 時間をあけて連続 2 回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの

第3 保健に関する業務

下記の疾患に関しても、必ず医師の診察を受け、登園可否の確認をしてください。

なお、園での集団生活に適応できる状態に回復してから登園するよう、ご配慮ください。状況に応じて、登園届の提出をお願いする場合があります。

【必要時、登園届の提出をお願いする感染症】

感染症名	感染しやすい時期	登園のめやす
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24～48時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治っていること
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅斑（リンゴ病）	発しん出現前の1週間	全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎 （ロタ、ノロ、アデノウイルス等）	症状のある間と、症状消失後1週間（量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要）	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間（便の中に1ヶ月程度ウイルスを排泄しているため注意が必要）	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
帯状疱疹	水疱を形成している間	すべての発しんが痂皮化してから
突発性発しん		解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと
とびひ	効果的治療開始後24時間まで	皮疹が乾燥しているか、湿潤部位が被覆できる程度のものであること

令和5年5月改正